

訂正：差し換え版

赤字部分が訂正箇所です。

◆アルコール精神病

◇ウェルニッケ・コルサコフ症候群：ニコチン酸やビタミン B1（サイアミン）の欠乏で起こる。眼球運動麻痺，小脳失調（ウェルニッケ脳症）に引き続き，記憶力低下，見当識障害，作話症などが後遺症（コルサコフ症候群）として残る。

◇アルコール幻覚症：飲酒時の幻聴を主体とした幻覚症

◇アルコール性嫉妬妄想

◆覚せい剤による精神障害

◇覚せい剤急性中毒：中枢神経系の異常興奮（精神運動興奮，気分発揚，多幸・万能感，不安・焦燥），退薬による反跳現象（無欲，疲労，脱力，抑うつ気分）

◇覚せい剤精神病：統合失調症類似の病像

◇フラッシュバック：非特異的な刺激（感情的ストレスなど）による精神病症状の再燃

(2) 統合失調症

◆概念：主として思春期に発病し，特徴的な思考障害，自我障害などを主徴として多くは慢性に経過する原因不明の精神病

◆疫学：発症率 0.7～0.8%

◆好発年齢：15～35 歳（特に 10 代後半から 20 代前半）

◆症状

◇陽性症状（健康な状態ではないものが出てくる症状）

①思考障害

a) 妄想

- ・被害妄想（関係妄想，追跡妄想，注察妄想，被毒妄想など）
- ・誇大妄想（宗教妄想，発明妄想，血統妄想，恋愛妄想など）
- ・一次妄想（妄想気分，妄想知覚，妄想着想）

②幻覚

a) 幻聴，幻視，体感幻覚

◇陰性症状（健康な状態ではあるものがなくなる症状）

①感情障害

a) 感情鈍磨，不調和な感情反応，両価性，自閉，疎通性障害

②意欲行動の異常

a) 能動性低下，自発性低下，無為，独語，空笑，社会行動の障害

◇シュナイダーの一級症状

考想化声，話かけと応答の形の幻聴，自己の行為を批判する幻聴，身体への影響体験，思考奪取，思考伝播，妄想知覚，させられ体験

◆病型

◇妄想型

◇破瓜型（予後不良）

◇緊張型

- ・興奮（了解不能の運動爆発と衝動行為）
- ・混迷（自発運動の停止，緘黙）
- ・カタレプシー，拒絶症，常同症

◇単純型

訂正：差し換え版

赤字部分が訂正箇所です。

◆経過、予後

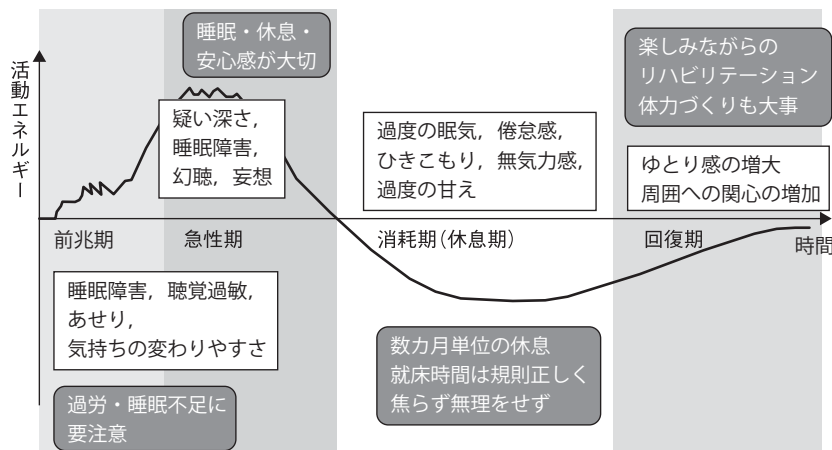
◇予後と予後に影響を与える因子

寛解，軽度の欠陥状態，重症の欠陥状態，人格荒廃が1/4 ずつ

予後良好な要因：女性，発症年齢が**高い**，急性発症，再発が少ない，陰性症状が少ない，未治療期間が短い，抗精神病薬への良好な反応，発症前のレベル，成功体験，社会参加の機会，家族の理解や適切な対応

予後不良な要因：家族の HighEE (High Emotional Expression ; 高感情表出)

◇経過：前兆期，急性期，消耗期，回復期



(財) 全国精神障害者家族会連合会：統合失調症を知る心理教育テキスト当事者版。P5～36, あせらず・のんびり・ゆっくりと, 2004 (一部改変)

◆治療

◇薬物療法：抗精神病薬（抗幻覚妄想作用，鎮静効果，意欲賦活，認知機能の改善），抗パーキンソン病薬，睡眠薬，抗不安薬など

◇精神療法：個人精神療法，集団精神療法

◇生活療法：作業療法，SST (Social Skills Training 社会生活技能訓練)

(3) 気分障害

◆概念：憂うつや気分の高揚などの感情が一定期間正常を超えた状態にあり，それにより精神や行動，身体などに障害が生じたもの。

◆分類

◇うつ病

◇躁うつ病

◆素因・誘引

◇遺伝素因

◇人格：循環気質—社会的，人情に厚い，親しみやすい，好人物，協調性，現実的
執着器質—仕事熱心，凝り性，徹底的，正直，几帳面，正義感・責任感が強い

メランコリー親和型—勤勉，良心的，責任感が強い，衝突や摩擦を避ける，他者に尽くす，秩序への固着

◇誘引：心理的，社会的誘引や身体疾患に引き続いて起こることもある

◆疫学：躁うつ病<うつ病

うつ病：男性<女性

躁うつ病：男性=女性

訂正：差し換え版**赤字部分が訂正箇所です。**

◆症状

◇うつ状態

感情：憂うつ気分，悲哀感，絶望感，寂寥感など

思考：思考抑制，集中力低下，マイナス思考，妄想(微小妄想：罪業妄想，貧困妄想，心気妄想)，希死念慮など

欲働・行動：食欲低下，不眠（早朝覚醒），意欲低下，動作緩慢，昏迷などの精神運動抑止，自殺など

身体：便秘，頭痛，性欲低下など

◇躁状態

感情：気分高揚，爽快気分，易怒性など

思考：観念奔逸，思考促迫，誇大妄想など

欲働・行動：多弁，多動，行為心迫，乱費，暴力，不眠（苦しくない），食欲亢進など

◇混合状態

うつ状態の症状と躁状態の症状が混合した状態

◇初老期・老年期うつ病

不安・焦燥感が強い，妄想が出現しやすい，病状の長期化傾向，仮性認知症

◆経過・予後

一般に良好．10％に自殺企図が起こる．再発率 50％．

寛解時に人格の障害を認めず，統合失調症のように進行性に経過することはない．

心気症状・強迫症状を伴うものや老年期のもの，脳器質障害を合併するもの，環境因や心因が持続しているもの，人格障害を伴うものは概して予後のよくない傾向にある．

◆治療

薬物療法(抗うつ薬，睡眠導入剤)，電気けいれん療法，休養，精神療法，心理療法，生活指導など

◆接し方の注意

励ましや気晴らしの勧めは禁物，自殺念慮に注意，重大な決定は先送りする

(4) ストレス関連障害

◆不安障害

◇パニック障害

- ・定義：予知できない反復性の重篤な不安（パニック）発作
- ・広場恐怖（特定の場所や空間に限定された恐怖症）を伴うものと伴わないもの
- ・予期不安（発作が起こるのではないかという心配の継続）と行動の変化（乗り物に乗るのを避けるなど）を伴う．
- ・他の精神疾患と併存することも多い．
- ・症状：動悸・心悸亢進，発汗，ふるえ，息苦しさ，窒息感，胸部不快感（胸痛），吐気・腹部不快感，めまい・気が遠くなる感じ，現実感消失・離人感，コントロール喪失や気が狂うことに対する恐怖，死ぬことへの恐怖，異常感覚（感覚麻痺，うずき感），熱感・冷感

◇全般性不安障害

仕事や活動，将来についてなど多数の出来事についての過剰な不安と心配．

症状：イライラ，心配，筋緊張，集中困難，不眠，易疲労，発汗，ふらつき，動悸，めまい，胃部不快感，下痢，頻尿など

◇社会（社交）不安障害

比較的少人数の集団（知り合い，顔見知りなど）のなかで他の人に注目されることへの恐怖（接